

## 第2号議案 2017年度事業計画および収支予算案

### I. 2017（平成29）年度事業計画

#### 1. 定期刊行物および資料の刊行

日本土壌肥科学雑誌（第88巻第2号～第6号および第89巻第1号の計6冊、A4判）、SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION (Vol.63, No.2～No.6, Vol.64, No.1の計6冊、A4判) および2017年度仙台大会に際して日本土壌肥科学会講演要旨集（第63集、A4判）を刊行する。

#### 2. 講演会および研究会等の開催、支援

##### (1) 「土と肥料」の講演会

2017年4月16日（日）、総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「肥料技術の来た道行く道」とし、講演者と演題は小林 新氏「肥料技術の現在・過去・未来」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

##### (2) 2017年度年次大会

2017年9月5日（火）～7日（木）、東北大学青葉山新キャンパスおよび東北大学百周年記念会館（川内萩ホール）において年次大会を開催する。同期間中、一般講演、ポスターセッション、シンポジウムは5日（火）から7日（木）、学会賞等授賞式、受賞記念講演、懇親会は6日（水）に行う。なお、エクスカージョン（宮城県南部の沿岸地域を予定）を8日（金）に行う。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員に公募し、これを基に部門長会議で検討して設定することとしている。

学会賞等授賞式では、第62回日本土壌肥科学会賞3名、第22回同技術賞2名、第35回同奨励賞4名、第6回同技術奨励賞2名に各賞を授与するとともに、受賞者の記念講演を行う。また、論文賞2件およびSSPN Award 1件の受賞者については、各賞を授与するとともに、受賞記念ポスターを展示する。

また、IUSS 副会長である Prof. Flavio Camargo 氏（ブラジル）を招聘し、特別講演を計画している。

##### 第62回 日本土壌肥科学会賞受賞者

- ・石川 覚：イネのカドミウム吸収機構の解明とカドミウムを吸収しない水稻品種「コシヒカリ環1号」の開発
- ・久保寺秀夫：九州沖縄地域の各種土壌が有する問題点の解析と管理指針の提示
- ・山本洋子：植物細胞におけるアルミニウム障害ならびに耐性機構に関する研究

##### 第22回 日本土壌肥科学会技術賞

- ・原 正之：家畜ふん堆肥の成型技術に関する研究
- ・藤井弘志：気象変動条件下における水稻の生産性向上のための窒素とケイ酸の肥

#### 培管理技術の開発

#### 第 35 回 日本土壤肥料学会奨励賞受賞者

- ・阿部 進：西アフリカ低地の土壤生成学的研究と水田稲作ポテンシャルの実践的評価
- ・上野大勢：植物の重金属輸送に関する研究
- ・杉原 創：熱帯アフリカにおける養分フローに着目した土壤資源管理に関する研究
- ・和田慎也：葉の老化過程におけるオートファジーを介した葉緑体タンパク質の分解と窒素利用効率に関する研究

#### 第 6 回日本土壤肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・岩佐博邦：メタン発酵消化液由来資材の肥料的効果の検証とその施用技術の確立に関する研究
- ・丹羽勝久：大規模畑作地帯における土壤の評価とその活用に関する研究

#### 日本土壤肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・森次真一・石橋英二・山本章吾・沖 和生：水稻栽培におけるアメダスメッシュ気象データを活用した被覆尿素の窒素溶出推定精度
- ・板橋 直：土壤への窒素負荷による河川水質汚濁に対する脆弱地域の区分～霞ヶ浦周辺地域の 9 河川流域での事例～

#### SSPN Award 受賞者

- ・Atfritedy Limin, Mariko Shimizu, Masayoshi Mano, Keisuke Ono, Akira Miyata, Hideo Wada, Haruhiko Nozaki, Ryusuke Hatano : Manure application has an effect on the carbon budget of a managed grassland in southern Hokkaido, Japan

### (3) 支部大会等

- ・北海道支部：第 19 回日本土壤肥料学会北海道支部野外巡検(時期・場所未定)および 2017 年度秋季支部大会・支部総会(11 月下旬～12 月上旬、札幌市内)を主催する。また、第 1 回支部評議員会(6 月上旬 北海道大学)、第 2 回支部評議員会(11 月下旬～12 月上旬、秋季支部大会の昼休み時間)を開催する。
- ・東北支部：東北支部大会、支部役員会および支部総会を開催する(6～7 月、岩手県盛岡市)。
- ・関東支部：関東支部神奈川大会、支部幹事会および支部総会を開催する(11/25 日本大学生物資源科学部)。
- ・中部支部：第 77 回中部支部総会、第 96 回支部例会を開催する(3/2 愛知県名古屋市ウインクあいち)。第 78 回中部支部総会、第 97 回支部例会を開催する(10 月～11 月 富山県、日程・場所調整中)。また、第 159 回支部評議員会(3/2 愛知県名古屋市ウインクあいち)、第 160 回支部評議員会(5 月 名古屋市 日程・場所調整中)、第 161 回支部評議員会(10～11 月 富山県 研究会と同時開催 日程・場所調整中)を開催する。
- ・関西支部：関西支部講演会(12/7)および支部役員会(12/8)を開催する(奈良県)。
- ・九州支部：九州支部例会、支部賞選考委員会、2017 年度支部常議員会、支部総会

並びに若手討論会を開催する（8～9月 佐賀市）。

### 3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第63回日本土壌肥料学会賞、第23回同技術賞、第36回同奨励賞、第7回同技術奨励賞、第7回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

### 4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・エチオピア土壌学会（3月 アフリカ土壌学会共催、エチオピア・アジスアベバ）に代表者を派遣する。
- ・ヨーロッパ地球科学連合大会（EGU：4/23-28、ウィーン）に代表者を派遣する。
- ・国際都市土壌会議（ロシア・モスクワ）に代表者を派遣する。
- ・第30回環境工学連合講演会（5/23 日本学術会議講堂）を共催する。
- ・日本地球惑星科学連合 2017 年度連合大会（5/21～25 幕張メッセ）のセッション「Biodiversity, nutrients and other materials in ecosystems from headwaters to coasts」を協賛する。
- ・第54回アイソトープ・放射線研究発表会（7/5～7 東京大学弥生講堂）を共催する。
- ・ICOBTE（7/16～20 スイス・チューリッヒ）に代表者を派遣する。
- ・残留性有害物質に関する国際会議 ISPTS2017（9/24～28 名古屋大学東山キャンパス）を後援する。
- ・第61回粘土科学討論会（9/25～27 富山大学）を共催する。
- ・米国土壌学会（11月 アメリカ・タンパ）に代表者を派遣する。
- ・ESAFS（12月 タイ・バンコク）に代表者を派遣する。

### 5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。また、「国際土壌の10年」に関連した事業を企画する。
- ・土壌教育委員会：①仙台大会において高校生ポスター発表会を実施する（9/5～7）。②やさしい土の解説テキスト（仮称）の編集および出版を行う。③土壌教育の推進に関する基礎資料のとりまとめを行う。④自然観察の森に土壌断面の説明等が書かれた野外観察板を設置する（場所未定）。⑤教員研修およびその他の普及事業を行う（時期・場所未定）。
- ・財政基盤整備委員会：収支バランスのとれた学会運営ならびに大会運営のあり方について検討する。
- ・広報委員会：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②メールマガジン等による情報発信の活性化を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロダクツ 2017に出展する（2017.12）。

## 6. その他、本学会の目的達成のための事業

- ・ 外部からの顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- ・ 規程に基づき、若手正会員及び学生会員の海外学会参加渡航費の一部を支援する。
- ・ 各理事担当の年間業務を整理し、円滑化を図る。